

<幼稚園教育>

友達とのかかわりを深めるための援助の工夫 —自己発揮と自己抑制を促す援助を通して—

糸満市立潮平幼稚園教諭 金 城 明 美

内容要約

友達とのかかわりを深めるために、友達とのかかわりが少ない幼児、自己主張の強い幼児を抽出し、自己発揮や自己抑制を促す援助を行った。その結果、友達とのかかわりの少ない幼児は、教師や友達に自分の思いや要求を言葉で伝える等、自己発揮することができるようになった。また、自己主張の強い幼児は自分の気持ちを相手に伝え、相手の思いに気付き、決まりを守る等、自己抑制しながら自己発揮できるようになった。

【キーワード】 友達とのかかわり 自己発揮 自己抑制 自己主張 援助の工夫

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究内容	2
1	幼児の人とのかかわり	2
2	自己発揮と自己抑制	2
3	友達とのかかわりを深めるための年間計画	4
III	保育実践	5
1	活動名	5
2	活動設定の理由	5
3	保育計画	6
4	保育の目標	6
5	保育の視点	6
6	本時の保育展開	7
7	保育の視点の検証	8
IV	研究の考察	8
1	友達とのかかわりが少ない幼児が、自己発揮するための援助の工夫	8
2	自己主張の強い幼児が自己抑制しながら、自己発揮するための援助の工夫	9
V	研究の成果と今後の課題	10
1	研究の成果	10
2	今後の課題	10

<幼稚園教育>

友達とのかかわりを深めるための援助の工夫

—自己発揮と自己抑制を促す援助を通して—

糸満市立潮平幼稚園教諭 金城明美

I テーマ設定の理由

近年の社会の変化に伴い幼児を取り巻く生活環境も変化している。少子化、核家族化、情報社会化が進む中で、幼児はビデオやゲームなど室内で遊ぶことが増え、人とのかかわりが希薄になってきている。幼稚園教育要領の領域「人間関係」では、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。」と述べられている。幼児期は、将来にわたり人とかかわりながら生活を営んでいくための基礎となる力を培う時期である。友達と触れ合いながら様々な活動を楽しんだり、一緒に行動することの喜びや充実感を味わったりすることは、人と積極的にかかわって生活を営もうとする意欲を育てるために大切なことである。

本学級の実態を見ると、自分から仲間に入ろうとせず、一人で積み木やブロックで遊ぶことを好み、友達とのかかわりが少ない幼児、また自分の意思や気持ちを相手にうまく伝えられず、トラブルになり遊びが続かなかったりする自己主張の強い幼児が見られる。これまで友達とのかかわりが少ない幼児に対して、教師を媒介に友達と一緒に遊ばせ、他の幼児とのかかわりを積極的に持たせるようにした。また、自己主張の強い幼児には、自分の行動のあやまちに気付かせたり、話し合いの場を設けたりする援助をしてきた。しかし、このような援助はその場だけの解決にすぎず、その後もかかわりの少ない幼児は、友達の遊びを傍観したり、一人で遊んだりする姿が見られた。また、自己主張の強い幼児も自分の思いが伝わらずたびたびトラブルを繰り返すことが多かった。それは、友達と遊んではほしいという教師の思いが先行し、友達とのかかわり方を身に付けさせる援助になっていなかつたこと、トラブルなどの解決を急ぐあまり互いの思いを伝え合い、納得して気持ちの立て直しができる援助になっていなかつたことが原因だと考える。

幼児期は、遊びの中で嬉しい、楽しい、悔しい、悲しい等の多様な感情体験をし、友達の気持ちに気付きながら友達とのかかわり方を学んでいく時期である。そのために、幼児が自己発揮と自己抑制の調和のとれた発達の上で友達とのかかわりを深めることができるよう、教師は言葉や行動から幼児を理解し、一人一人の発達に応じた、援助の工夫をすることが大切である。そうすることにより、自分の思いが伝えられるようになり、相手の思いにも気付き自己抑制しながら自己発揮できるようになる。

そこで、友達とのかかわりが少ない幼児、自己主張の強い幼児を抽出し、幼児の自己発揮や自己抑制を促す援助を通して、友達とのかかわりを深めるための援助の工夫を探りたい。

<研究の視点>

友達とのかかわりを深めるために、以下のような援助の工夫を探る

- 1 友達とのかかわりが少ない幼児が、自己発揮するための援助
- 2 自己主張の強い幼児が、自己抑制しながら自己発揮するための援助

II 研究内容

1 幼児の人とのかかわり

(1) 幼児期における人とのかかわり

幼稚園教育要領解説には、「人とかかわる力の基礎は、自分が保護者や周囲の人々に温かく見守られているという安定感から生まれ、人に対する信頼感をもつこと、さらに、その信頼感に支えられて自分自身の生活を確立していくことによって培われる。」と述べられている。このように幼児が様々な人とかかわる力を身に付け、発達していくためには、自分と同年代の幼児とのかわり合いが大切である。幼児は、友達と積極的にかかわることで、自分の感情や意志を表現する。また、相手の感情に共感する体験を積み重ねたりすることで、自己を発揮し、相手を尊重する態度を身に付けていく。

(2) 幼児理解に基づく援助

幼稚園生活において、一人一人の幼児に、発達に必要な経験を得られるようにするために、教師は幼児と生活を共にしながら、幼児の行動や心の動きを温かく受け止め、幼児を理解することが大切である。教師は、幼児の発達の実情や生活の流れなど、幼児理解を基にした、友達とかかわるための環境の構成や幼児同士がコミュニケーションを図るための援助等を工夫する必要がある。

(3) 友達とのかかわりを深めるとは

幼児は、相手に親しみを感じると、その相手に思ったことを伝えようとする。初めは互いに一方的に自分の思っていることを伝えることが多いが、相手に対する興味や親しみが増してくると、自分中心の主張をしながらも、少しずつ相手にわかるように伝えようとする。親しみをもつ、相手に伝えようとする。また、伝わることで親しみをもつという循環の過程を経て、次第に相手の思っていることに気付くようになり友達とのかかわりを深めていく。

(4) 友達とのかかわりを深め育ち合う

友達とのかかわりを深め育ち合うことを次のように捉えた。

① 幼児一人一人の思いを受け止めることで友達同士が育つ

教師が幼児一人一人の思いを受け止めることで、それが幼児自身の友達に対する姿勢となり、幼児同士がお互いを認め合うようになっていく。幼児が自分を発揮できるように、一人一人を受けとめてやることで、友達同士の心が結び付き、お互いが育ち合う。

② 教師や友達と安心してやってみたいことを存分に行うことで自分を発揮する力が育つ

幼児が友達といて楽しいと思い、幼児同士がいろいろな刺激を受け合える環境でなければならぬ。幼児の発達は、主体的に環境にかかわり、教師や友達と共に、様々な経験をすることで実現する。幼児が興味を抱き、やってみたいと思うことを存分に行うことで、自分を発揮する力が育つ。

③ 幼児は互いに影響し合うことで認め合ったり、励まし合ったりすることで自信が育つ

幼児が様々な人とかかわる力を身に付け、十分に発達していくためには、自分と同年代の幼児とのかかわり合いが不可欠である。幼児にとって友達は、発達を大きく促してくれる存在である。

幼児は、お互いに刺激し合い、モデルになり合ったりするなど、友達との経験を積みながら、積極的に遊ぶことにより、自信が育つ。

2 自己発揮と自己抑制

園生活の様々な場面で、幼児が自分の考えや思いを相手に伝えようとしながら、相手にも思っていることや言いたいことがあることに気付いていくことが大切である。お互いの主張がぶつかり合うこともあるが、幼児にとっては自己発揮と自己抑制の調和を図るために必要な体験であるので、それぞれの幼児の気持ちを十分に受け止めながら、互いの思いが伝わるように援助することが大切である。

本研究においては、自己発揮、自己抑制の変容を検証するため、広島大学(山崎晃代表)が作成した自己制御尺度項目（頁3）を基に自己主張項目、自己抑制項目にわけ教師からみた幼児の姿を4件法で評定する。

(1) 友達とのかかわりが少ない幼児が自己発揮する捉えと援助の工夫

幼児が、自分の個性を十分に發揮し、友達とのかかわりを通して、自分の思いを出して友達と遊ぶことが大切である。そのために、友達とのかかわりが少ない幼児が自己発揮できるように援助する。

教師の援助 <ul style="list-style-type: none"> ・認め励まし、自信を持たせる ・居場所づくり ・「貸して」「入れて」等自分の思いが言えるよう代弁する ・遊びたくなる環境構成 	自己主張項目 <ol style="list-style-type: none"> 1 他の子どもに自分の考えやアイディアを話す 2 遊びたいおもちゃを友達が使っているとき「貸して」と言える 3 入りたい遊びにじぶんから「入れて」と言えない(逆転) 4 ひどい悪口を言えわれたり、からかわれると怒る 5 他の子どもと自分の考えが違っているとき自分の考えを主張できる 6 人から促されないと行動が起こせない(逆転)
--	---

(2) 自己主張の強い幼児が自己抑制しながら自己発揮する捉えと援助の工夫

幼児が友達とかかわる中で、自分を主張し、自分が受け入れられたり、あるいは拒否されたりしながら、自分や相手に気付いていく経験をすることが大切である。そのために、自己主張の強い幼児が自己抑制しながら自己発揮できるように援助する。

教師の援助 <ul style="list-style-type: none"> ・トラブルの場面を見守る ・仲立ちをする ・友達に共感する ・遊びの中でルールが守れるようにする ・最後まで頑張る姿を認める 	自己抑制項目 <ol style="list-style-type: none"> 1 仲間と意見のちがう時、相手の意見を聞き入れられない(逆転) 2 遊びのルールが守れない(逆転) 3 してはいけないと言われたことはしない 4 他児のものが欲しくても我慢する 5 失敗したりうまくいかなかった場合でも、すぐにあきらめない 6 頼まれたことが嫌なことや難しいことでも、頑張ることができる
---	--

(3) 友達とのかかわりを深める過程

(広島大学山崎晃代表による)

幼稚園においては、何よりも教師との信頼関係を築くことが必要である。それを基盤に、友達の存在に気付き、自分の居場所を確保し、友達と安心して触れ合ったり、積極的にかかわったりして自分のやりたい遊びに取り組む。遊びの中で様々な感情の交流をすることによって、相手への親しみや自分との違いを感じとれるように見守り、それぞれの気持ちを代弁したり仲立ちをしたりする。そして、様々な心を動かす出来事を友達と共有し、親しみを持ち、相手に伝えようとする、また、伝わることで親しみを持つという循環の過程を経て、次第に相手の思っていることに気付くようになり、友達同士のかかわりが深まる。

自己発揮と、自己抑制しながら自己発揮し友達とのかかわりを深める過程を図1に捉えた。

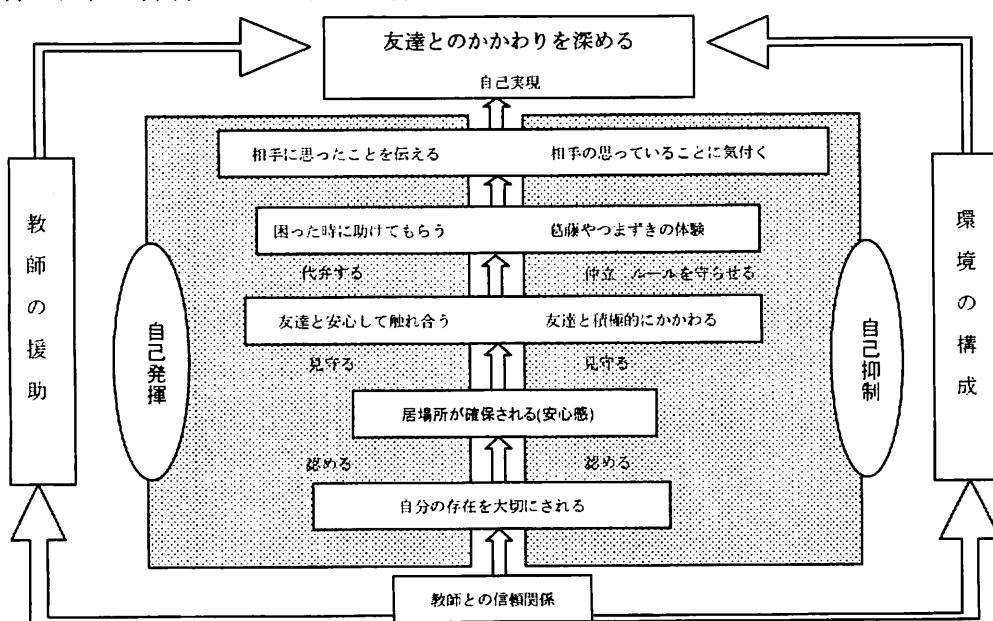


図1 自己発揮と自己抑制し友達とかかわりを深めて行く過程

3 友達とのかかわりを深めるための年間計画

友達とのかかわりを深めるために、教育課程をもとに年間計画を作成する。

表1 友達とのかかわりを深めるための年間計画

期	1期	2期	3期	4期	5期
月	4月～5月	6月～7月	9月～10月	11月～12月	1月～3月
発達の過程	(先生となかよし) ・教師や友達との触れ合いを通して、安定していく時期	(友達っていいな) ・気の合う友達と一緒に周囲のものや遊びとのかかわりを楽しむ時期	(友達をさそって) ・個を發揮しながら遊びに挑戦し、友達とのかかわりを楽しむ時期	(力をあわせて) ・友達とイメージを伝え合い共に生活する楽しさを知っていく時期	(みんな仲良し) ・仲間意識をもって自主的に行動しようとする時期
ねらい	・園生活の仕方を知り、安定して過ごす。	・好きな遊びを見つけ、友達や教師とかかわって遊ぶ。	・友達とのかかわりの中で様々な葛藤を重ねながら一緒に遊ぶ楽しさを味わう。	・友達とイメージを出し合いながら、遊びを進めていく楽しさを味わう。	・自分の考えを伝えたり友達の考えを受け入れたりして、一緒に遊びを進めていく。
内容	・教師や友達と一緒に身支度や後片付けなどをして少しずつ幼稚園の生活を知っていく。 手遊び、ままごと 鬼ごっこ、砂遊び 固定遊具、歌う 絵本を見る	・友達と話しかけたり、友達のしぐさに興味を持ったりして、気の合う友達を見つけて遊ぶ。 シャボン玉、色水 プール、虫探し	・友達と一緒に自分の力を試しながらいろいろな遊びを楽しむ。 縄跳び、フープ かけっこ、リレー 竹馬、木登り	・友達の考え方を聞いたり、自分の考え方や力を発揮したりしながら遊びを進める。 ごっこ遊び、ペーパーサート、紙芝居作り 絵本作り	・自分の思っていることを伝えたり、友達の考え方を聞いたりしながら、大勢で力を合わせて遊びや生活を進める楽しさを味わう。 正月遊び、劇遊び ゲーム
★自己発揮 ☆自己抑制 ○環境構成	★一人一人の幼児の気持ちを受け止めながら、安定して自分の遊びが楽しめるように園生活の仕方を知らせていく。 ☆遊びの中で、友達とのかかわりを徐々に知らせていく、一緒に遊ぶ楽しさを感じとさせていく。 ○安心して過ごせる場所であることが、感じとれるような環境の工夫をする。	★幼児一人一人の行動や気持ちを認めながら、教師と一緒に遊ぶ中で友達との話し方や接し方、遊びの参加の仕方などを知らせ、友達とかかわって遊べるようにする。 ☆教師も遊びに参加し、幼児の遊びへの参加を促し、教師を媒介にして幼児同士かかわりがもてるようになる。 ○遊びに取り組みやすいように環境構成に配慮する。	★友達やいろいろな人に关心がもてるような環境を作り、一緒に遊ぶ楽しさが感じられるようにする。 ☆トラブルの場面を見逃すことなく丁寧にかかり、一緒に遊ぶ。 ○友達との触れ合う楽しさが感じられるよう一人一人が夢中になっていることを捉え環境構成をする。	★教師が友達の良さを伝えたり、友達と楽しく遊んだりする中で、友達の良さに気付くことができるようになる。 ☆友達とイメージを持って遊べるような環境を作り、イメージを共有できるような援助の仕方を工夫していく。 ○いろいろなものに見立てられるような素材を準備し、遊びのイメージを豊かにする。	★友達の話を聞いたり、自分の言いたいことを相手が分かるように伝えたとする。 ☆友達と楽しく遊ぶためには、ルールを守ることが大切であることに気付かせていく。 ☆自分なりにイメージを持って取り組む姿勢を大切に受け止め、友達と思いが通じるよう仲介をしていくようになる。

III 保育実践

1 活動名

友達と一緒に遊ぼう(こま回し, かるた取り, すごろく, あやとり, けん玉)

2 活動設定の理由

(1) 教材観(省略)

(2) 幼児観

本学級の幼児は、遊びを傍観したり、一人で遊ぶ等友達とのかかわりの少ない幼児や「勝手に取った」「仲間に入れてくれない」等自分の思い通りにならないために、トラブルになったり等、自己発揮できない幼児、自己主張の強い幼児が見られる。

幼児は、遊びを通して友達と触れ合い、自分の思いや考えを相手に伝えようとしながら、相手にも言いたいことがあることに気付いていく。そのためには、友達とかかわりの少ない幼児が自己発揮できるように、また、自己主張の強い幼児が自己抑制しながら自己発揮できるよう発達を促していくかなければならない。

(3) 指導観

幼児はこま回し、かるた取り、すごろく、あやとり、けん玉など、好きな遊びの中で興味のある遊びを見つけ友達と一緒に楽しんでいる。中には自分からかかわれない幼児がいるので教師も遊びの仲間に入り頑張っていることを認め励まし自己を発揮し友達とかかわって遊べるようにする。また、自己主張の強い幼児が友達とかかわり自己抑制しながら自己発揮できるよう適切な援助をしていくことで、友達とのかかわりを深めていくために、自己発揮と自己抑制を促すための援助の工夫をする。

友達と一緒に遊ぶための、自己発揮と自己抑制の援助の工夫を表2にまとめた。

表2 自己発揮と自己抑制を促す援助の視点と工夫

	援助の視点	援助の工夫
自己 発 揮	<ul style="list-style-type: none">・自分のやりたい遊びを友達と一緒に遊べるようとする。・友達に自分の思っていることを伝えながら遊ぶようとする。・「貸して」「入れて」等を言えるようとする。	<ul style="list-style-type: none">・安心して活動ができるように環境を整える。・幼児のありのままの姿を受け止める。・幼児一人一人に合った言葉かけをし、自信を持って遊べるようにする。・教師も一緒に遊びに参加し、幼児の活動への参加を促す。また、教師を媒介にして幼児同士のかかわりがもてるようする。・友達の言葉や行動に対して、他の幼児が関心を持てるようする。・思っていることが言えない幼児には、教師が代弁をしたり、できるだけ自分で言えるような援助をしたりする。
自己 抑 制	<ul style="list-style-type: none">・友達が遊びに使っているとき、断ってから借りることができるようにする。(ルールが守れる。我慢ができる。)・友達の思いや気持ちに気付かせるようにする。・相手の考えを聞きながら友達と一緒に遊べるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・安心して活動ができるように環境を整える。・トラブルが起きた場合は、それぞれ気持ちを受け止め、お互いの思いを自分の言葉で伝えられるように状況づくりをする。・まわりに理解されることで、自分の気持ちを抑えようとする姿を認めてあげる。・一緒にかかわりながら、自分の気持ちを伝え、相手の思いにも気付けるようする。・相手のよさに気付かせる。

3 保育計画

月 日	主なねらい	幼児の活動	○環境と 援助 (★自己発揮 ☆自己抑制)
12／9 (金) ～ 14 (水)	・売り買い遊びの中で、「入れて」「貸して」「〇〇下さい」などが言える。 ・友達に自分の思いを伝えながら遊びを進める。	・売り買い遊びをする。 ・ペーパーサートをする。 ・絵本を見る。	○友達とかかわりながら売り買い遊びが楽しめるように環境の構成をする。 ★思い思いにイメージを広げながら友達とかかわって遊べるように教師も仲間に入り、遊びが楽しくできるようにする。 ☆黙って入りトラブルになった場合、断って入ることに気付かせる。
H18 1／6 (金) ～ 1／12 (木)	・2学期に経験した遊びや正月遊びをしながら友達や教師との会話や触れ合いを楽しむ。 ・進んで友達とかかわり、友達と一緒に遊びを進める楽しさを味わう。	・2学期に経験した遊びをする。 ・伝承遊びをする。 (こま・かるた取り・すごろく・あやとり・お手玉等) ・クラス全体でかるた取りをする。	○正月遊びやゲームをいつでも使ったり作ったりできるように、素材や用具などを使いやすいよう準備しておく。 ★冬休みに経験したことを話そうとする幼児もいるので、しっかりとその気持ちを受け止め、聞いていく。また、みんなで友達の話を聞いたり、話す場をつくっていったりする。 ☆友達のしている遊びに挑戦したり、新しい遊び方を工夫しようしたりする気持ちを大切に認め、見せ合う場を設けたり、一緒に遊んだりし、喜びを味わわせる。
1／17 (火) ～ 1／19 (木)	・友達と試し工夫したりして楽しく遊ぶ。 ・自分の思いを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら一緒に伝承遊びを楽しむ。 (本時)	・伝承遊びをしよう。 (コマ回し・かるた取り・すごろく・あやとり・けん玉等)	○伝承遊びに主体的にかかわりお互いの遊びが邪魔にならないように場の設定をする。 ★一人一人が頑張っていることを認め、最後までやり遂げることを励ます。 ★仲間に入りたいけど「入れて」と言えないことがある場合は、教師も一緒になって言えるようになる。 ☆自己主張のぶつかり合いから、トラブルが起こることがある。そのときにはすぐに仲介ではなく、見守るようにする。そのうえで、それぞれの気持ちを相手に伝えたり相手の話を聞けるように援助したり、自分の思いをうまく言葉で話す。 ☆みんなで決めたルールにしたがってできるよう、みんなで確認しながら進めていく。
1月 下旬	・言葉遊びを楽しみながら、友達とかかわりを持つ。	・言葉遊びゲームをする。	・ゲーム遊びをし、ゲームの中で話し、自分の思っていることが言えるようにする。

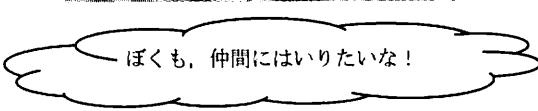
4 保育の目標

- ・自分の思いを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら、伝承遊びを楽しむ。

5 保育の視点

- ・友達に自分の思いを伝え一緒に遊びを楽しんでいたか。
- ・相手の考えを聞き一緒に遊びを楽しんでいたか。

6 本時の保育展開

幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどのどの幼児が遊びたい友達と一緒に遊びを楽しんでいる。 自分から遊びに入れなかった幼児が、教師や友達が遊びに誘ったことをきっかけに友達と遊ぶ姿が見られる。 遊びの中でトラブルになることもあるが、自分の思いを相手に伝えようとする幼児がふえている。 		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら、伝承遊びを楽しむ。 	内容	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に伝承遊びを楽しむ。 友達に自分の思いを伝えながら一緒に遊ぶ。 相手の考えを聞き入れながら一緒に遊ぶ。
9:30	<p>○環境構成 教師の援助 (★自己発揮 ☆自己抑制)</p> <p>◇伝承遊びを楽しむ</p> <p>○興味を持った伝承遊びができるようコーナーを用意しておく。</p> <p>こま回し (手回しこま・紐ごま)</p> <p>○こまの芯の安全を考え、こまを回す場を子どもと一緒に考える。</p> <p>★友達と一緒に、こまを回し遊ぶ姿も見られるので、教師が応援したり、頑張っている姿を認めたりしながらあたたかい雰囲気の中で友達と一緒に回す喜びを味わえるようにする。</p> <p>☆こまを回せないことで、遊びに消極的になりがちなので、紐が巻けない時には、手伝ってあげたり、手回しこまで教師も一緒に遊んだり、あきらめないで、遊びが楽しめるようする。</p>  <p>あやとり・けん玉</p> <p>☆一人あやとりは友達のやっているのをまねたり、自分なりの遊び方を認めてあげたり、教師と一緒に二人あやとりを楽しんだりする。</p> <p>★遊びの中で自分の思いやイメージを伝えられているかを見て、伝わった時の喜びや受け止めてもらったときの喜びが味わえるようにする。また、相手の話もじっくり聞けるように教師も一緒になって聞いたりしながら援助をする。</p> 		
10:10 10:20	<p>◇集まる</p> <p>◇片づけをする</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の楽しかったことなどをみんなに伝え合う。 頑張っていたところや工夫していた様子など、みんなに伝え自信をもって話せるように代弁してあげる。 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを友達に伝え一緒に遊びを楽しんでいたか。 友達の考えを聞き一緒に遊びを楽しんでいたか。 		

7 保育の視点の検証

保育の視点について、観察者から見た抽出児の評価を考察する。

- (1) 友達に自分の思いを伝え、一緒に遊びを楽しんでいたか。(自己発揮してほしい幼児)

表3 検証保育の観察者からみた抽出児

評価 (A : 良い B : おおむね良い C : あまり良くない D : 良くない)

観察の視点	A 1児	A 2児	A 3児
① 自分から友達にかかわろうとする姿が見られたか。	A	B	C
② 友達に自分の思いを伝える場面が見られたか。	B	A	B

- ・A1児、A2児は、教師も一緒にこま回しをしたり、回せることを認めてあげたことで、友達と紐の巻き方を教え合ったり、こまを回す競争をしたりして、思いを伝えながら遊びを楽しんでいた。
- ・A 3児の観察の視点①の評価がCの要因は、自分から友達にかかわろうとする姿がみられず、教師に促されて遊びにかかわったからだと考える。今後、自己発揮できるよう集団活動の機会が多くもてるようになる。

- (2) 相手の考えを聞き一緒に遊びを楽しんでいたか。(自己抑制しながら自己発揮してほしい幼児)

表4 検証保育の観察者から見た抽出児

観察の視点	B 1児	B 2児	B 3児
① 自分の思いを友達に伝え遊んでいたか。	B	評価不可	C
② 友達の考えを聞き、受け入れて遊ぶことができたか。	C	評価不可	B

- ・B 1児は、すみやかに遊びの中で、自分の思いだけでこまを動かし、友達の考えを聞かずに遊びを進めていたので観察の視点①の評価はCだったと考える。友達がやりたいこと等相手の気持ちに気付けるように繰り返し援助していきたい。
- ・B 2児の評価不可は、自分だけの遊びをし、友達とのかかわりを持たなかったからである。集団活動の機会を多く持ち、自己抑制しながら自己発揮していくように引き続き援助していきたい。
- ・B 3児の観察の視点①の評価がCなのは、勝手にこまを借りたり、友達のやっている場所を使ったりし、自分の思いを伝えることができなかつたからである。友達に自分の思いが伝えられるよう、教師が代弁してあげたり、言葉遊びなどゲームをしたりして気付かせていく。

IV 研究の考察

学級の抽出児6人(友達とのかかわりがもてない幼児3人、自己主張の強い幼児3人)を対象に10月、12月、2月に自己制御尺度を基に評定した。また観察記録から、幼児の変容とその要因も分析し考察する。

1 友達とのかかわりが少ない幼児が、自己発揮するための援助の工夫【視点1の検証】

図2の自己主張項目結果のグラフからは、A1児(+6)、A2児(+12)、A3児(+6)の平均得点が上がっていることがわかる。また、表5の幼児の変容から、友達とのかかわりの少ない幼児が、「仲間に入れて」「使っているからだめ!」等自分の思いを言葉で伝えながら友達とのかかわりが見られる。教師や友達に認められたことが自信につながり、相手に自分の思いを伝えられるようになり、自己発揮し友達とかかわれるようになったと判断できる。

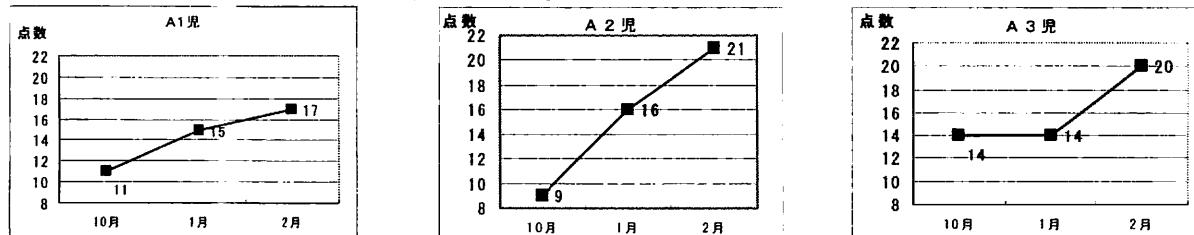


図2 自己主張の平均得点

表5 自己発揮してほしい幼児の姿・援助・変容

園児	幼児の姿と教師の願い	教師の援助	幼児の変容
A1児	<ul style="list-style-type: none"> ・口数が少なく、教師が話しかけても黙ったままで、問いかけにも目で合図することが多い。 ・自分に自信を持ち、自分の思いを友達に言えるようになり、友達と一緒に遊んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師とのかかわりを多く持ち、教師との信頼関係を密にする。 ・認め、励ましながら自分でできることを増やし、自信がもてるように援助する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いが言えるようになり、「僕もやりたい」「仲間に入れて」と自分から遊びにかかわれるようになってきた。 ・自分から教師や友達に話しかけるようになった。
A2児	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が遊びに誘ってもなかなか遊ばうとせずに、友達の遊びを傍観していることが多い。 ・遊びの中で友達に「貸して」「入れて」等、自分の思いを友達に言えるようになってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで挨拶したことを学級のみんなの前でほめてあげる。 ・教師も一緒に遊びに参加し、教師を媒介に友達とのかかわりがもてるようにする。 ・友達に「返して」など自分の思いが言えるように仲介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から教師や友達に挨拶をするようになった。 ・友達を誘い戸外で高鬼ごっこをしたり、すくろ遊びをしている友達に「仲間に入れて」「次はだれ」など、自分の思いが言えたり、友達と笑みをみせながら遊ぶようになった。 ・使っているこまを友達が貸してと言って来たとき、「使っているからだめ」と言えるようになってきた。
A3児	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で絵を描いたり、製作したりすることが多く見られるので、友達と一緒にかかわって遊んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたい遊びにじっくり取り組めるよう、思いやイメージを表現していくことを認め、励ます。 ・教師を媒介に他の児童と遊ぶ楽しさを知らせ、かかわれるよう援助していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・女の子4~5人と発表会の話をしていると、A3児も「やりたい」と言ってくるようになった。 ・教師がなりたい役をきくと「雪んこになりたい」と自分の思いが言えるようになった。 ・たまごっちを作っていると、首にかけるものが欲しいといってくる。みんなと同じように紙を渡すと、「紐がいい、紙だとすぐに破れるから」と自分の思いを要求することができるようになった。

2 自己主張の強い幼児が自己抑制しながら、自己発揮するための援助の工夫【視点2の検証】

図3の自己抑制項目結果のグラフから、B1児(+4)、B2児(+8)、B3児(+6)の平均得点が上がっていることや表6の幼児の変容から、相手の意見を聞いたり、ルールを守ったり、自分の気持ちを抑えようとするなど自己抑制しながら、自己を発揮することができるようになっていることがわかる。幼児のありのままの姿を受け止め、トラブルが起きたときなどお互いの思いを伝え合い、互いの気持ちに気付こうとする気持ちになったことも変容の要因になっていると考える。

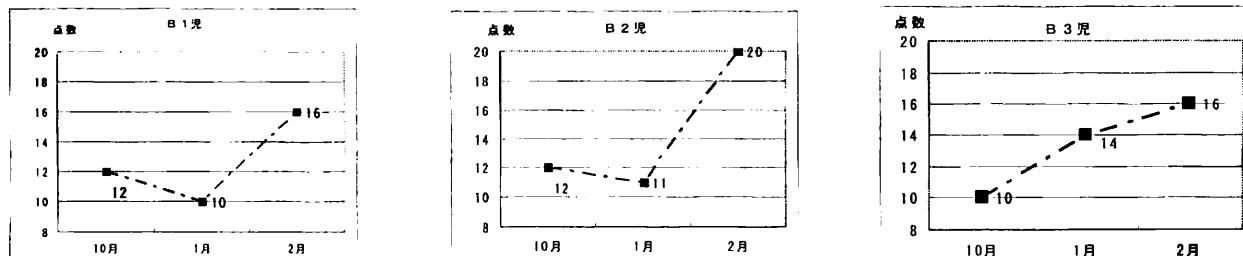


図3 自己抑制の平均得点

表6 自己抑制しながら自己発揮してほしい幼児の姿・援助・変容

園児	幼児の姿と教師の願い	教師の援助	幼児の変容
B1児	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の遊んでいるものをいたずらで取ったり、失敗するとひやかしたり笑ったりたりする。 ・自分の思いを伝えながら、友達の思いに気づけるようになってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えを聞き、受け入れられるように援助する。 ・遊びに対して「できない」と逃げ腰になるので、教師も一緒に遊び、また、大好きなH1児を媒介に遊びに取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活発表会のオペレッタのお地蔵さん役になったり、ゲーム遊びでは鬼になりました等、友達との話題も聞き入れて遊べるようになった。 ・教師が手伝いをお願いすると「いいよ」と手伝ってくれたり、相手の気持ちを素直に受け止めようとする気持ちが育った。 ・最後までかわって遊べるようになった。
B2児	<ul style="list-style-type: none"> ・誰にでも自分から話しかけたりする姿が見られるが、友達の話を聞かず、一方的なところがあるので、トラブルも多い。 ・興味のある遊びを認めてあげながら、友達とのかかわりをもたせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを生かしながら、友達の考えも聞き、受け入れて遊べるように援助する。 ・考え方や行動を肯定的に受け止め、認め、励ましながら友達の良さにも気付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒にこま作りをし、途中やめようとしたが、教師を媒介に仕上げることができた。「も一個作りたいな」と意欲も見られた。 ・かるた取りでは、自分から読み手になり、友達に「早く読んで」と言われても、いやがらず最後まで頑張ることができた。
B3児	<ul style="list-style-type: none"> ・乱暴な言葉（おまえ・入るな・静かにしろ等）で友達に話すのでトラブルになることが多い。 ・友達との遊びの中で、自分の気持ちを素直に伝えながら相手の思いにも気付いてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いだけを話すのではなく相手の気持ちを開き受け入れながら、自分の考えを相手に伝えられるように援助する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に「借りていい」と断ってから借りようになり、返すときにも「ありがとう」などが言え、友達にも教えることができるようになった。 ・「どうする」「〇〇に聞いてみるか?」等友達の話題も聞きながら遊びを進めるようになった。

V 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 友達とのかかわりの少ない幼児が、教師や友達に自分の思いや要求を言葉で伝えられるようになり、そのことが自信につながり遊びの中で自己発揮できるようになった。
- (2) 自己主張の強い幼児が、自分の気持ちを相手に伝え、相手の思いに気付き、決まりを守る等、自己抑制しながら自己発揮できるようになった。
- (3) 自己主張・自己抑制の項目を基に援助の視点を明確にし、援助することができた。
- (4) 職員間の連携で、幼児の心の葛藤や様々な気持ちを温かく見守り、幼児の心の動きに寄り添いながら援助してきたことで、友達とのかかわりがもてるようになった。

2 今後の課題

- (1) 幼児一人一人の発達を捉え、幼児理解を深めるためのチーム保育の工夫
- (2) 友達とのかかわりを深めるために多様な人とのかかわりも大切なので、家庭や地域との連携した保育

＜主な参考文献＞

文部省	『幼稚園教育要領解説』		フレーベル館	1999年
編著	小川博久	『新幼稚園教育要領の解説』	ぎょうせい	1999年
編著	友松諦道	『保育内容 人間関係』	建帝社	2002年